

# 松山市車両基地跡地広域交流拠点施設基本計画の概要

## 1 これまでの経緯

JR松山駅周辺地区は、南北に走るJR予讃線などにより東西に分断され、西側は都市基盤が未整備だったほか、踏切で交通渋滞が日常化していました。

そこで、松山市は、愛媛県やJR等と協力し、駅周辺のにぎわいを創り出し、利便性を高めるためさまざまな取組を進め、車両基地跡地で、駅に近接する立地をいかし、これまで以上に多くの人々が行きかい交流できるのにぎわい創出拠点を整備するよう目指しています。



## 2 整備方針

車両基地跡地を5,000席以上のアリーナとサブアリーナなどを中心に施設を整備し、プロスポーツの利用やコンサートなど興行の場として、また、さまざまなスポーツに加え、文化や学びに触れる機会を提供し、交流を促し、にぎわいのある施設を目指します。

### 新施設の 整備方針

- ①スポーツ、エンターテインメントをはじめとするにぎわい交流機能等、新たな魅力の創造によって、都心地域の活性化を図る
- ②市民が日常的に利用・交流可能な機能を導入し、日常のにぎわい創出を図る
- ③広域交通結節点の立地をいかして、来街者・交流人口の増加が期待できる機能を選定し、周辺と連携した効果的な施設づくり、エリア開発を目指す



また、スポーツやエンターテインメントイベントの開催はもちろん、災害時は地域の防災拠点で機能する施設にします。

◀引用:物資調達・輸送について 内閣府(防災担当)  
令和6年能登半島地震を踏まえた  
災害対応検討ワーキンググループ(第4回) 資料

# 松山市車両基地跡地広域交流拠点施設基本計画の概要

## 3 事業方針

### いまある「松山らしさ」を“発信し”、新たな「松山らしさ」を“創り出す”

市民が改めて誇りや愛着を感じ、観光客や来街者がおもてなしの心を感じられるエリアになるきっかけのコンテンツを生み出し、まちの魅力づくり、文化振興に貢献します。

### みんなが“つながり”、いつも楽しいアリーナを演出する

人々を惹きつけるようなコンテンツを、地域のさまざまな団体等が一体になって提供するアリーナを目指し、「行けば何かやっている」、「行きたくなる体験がある」と思える事業に取り組み、いつ行っても楽しいアリーナを演出します。

### どんなときでも“安心できる”居場所となる

試合やイベントの有無に関わらず、日常的に立ち寄ることができ、また、地震等の災害時には大空間を利用できるなど、アリーナの特徴をいかした安全・安心な空間を提供します。



▲ コンサートでの利用イメージ



▲ バスケットボールでの利用イメージ

## 4 施設計画

施設構成と機能や規模は、Bプレミア基準に沿って、5,000席以上の客席数を有するものとします。

また、ユニバーサルデザイン、バリアフリー、環境負荷低減など、公共の集客施設に求められる基本的機能を備えるとともに、時代のニーズに合わせてアップデートできる施設を目指します。

## 5 事業化へ向けて

施設規模などをサウンディング型市場調査などを考慮し、今後検討していく中で、適正な整備費になるよう努めます。また、持続性のある施設運営を目指し、さらに詳細な検討と調査を進めていきます。